

## 今を生きる

社団法人埼玉県放射線技師会  
会長 小川 清



新聞に、懐かしい名前SI君を見つけた。高校の1年3組の同級生の名前であった。彼は野球部に属し、3年時には県内一のショートストップと言われ、華麗な守備とシユアな打撃をかわ

れ、広島にドラフト入団した。入団後は一度も一軍の試合に出ることなく、永らく心配していたが、日経の「私の履歴書 広岡達郎」の記事の中で、広岡氏のすすめでプロゴルファーになっていたことがわかった。一方同じ組に1年からレギュラーとなって活躍し、甲子園にも出場したSUがいた。彼は卒業後、早稲田大学に入学し、ドラフトでクラウンへ、そして西武ライオンズへと移り、1軍で大活躍するまでにはいかなかったが、外国人選手の穴を埋めて活躍し、引退後は2軍監督となって指導者になった。

その「私の履歴書 広岡達郎」の中で、野球の守備は少しでも守備範囲を広く、確実に捕球して、素早く送球する技術を追求することであり、そのためには打球がくる前の準備が大切だということ、ボールがきたら捕ればいい、というレベルでは一人前ではないこと。投手が投球動作に入ったら集中し、どんな打球にも対応できるようにし、経験を重ね、打球のコースが読めるようになればさらによいと書いてある。このことは、どの分野においても言えることであり、我々の業務において照らし合わせて考えてほしい。そして技師会ができることと、職場にしかできないことがある。技師会は、生涯教育として、会員の皆様に、

医療の質向上に必要でふさわしい内容を提示し、手助けすることしかできない。つまり技（知識情報）が大部分であり、心や体は職場や家庭で養うものであり、体はともかく心はon-OJT<sup>1)</sup>として職場内に醸成していただきたい。その担当者はあなただ。一緒に仕事をしながら技のみならず、心についても教えて有能な診療放射線技師を一人でも多く増やしてほしい。そのためにはコミュニケーション・スキルをもっと高める努力が必要であり、それができる人がリーダーとなるのです。

最近、コミュニケーション・スキルが求められることが多岐にわたり出てきた。例えば「チーム医療」においてもコミュニケーション・スキルが必須です。チーム医療は、専門性知識をもった自立したスタッフが、自分の守備範囲を明確にしていく、あるいは広げていくことで、患者のために医療の質の向上を図っていくことであるが、混乱から火種を生むこともままあり、そこでコミュニケーション・スキルが求められ、柔軟で信頼性の高い業務運営が問われる。十年以上前、日本放射線技師会が医療機関の事務長にアンケートした中で、「与えられた仕事はきちんとやるが、それ以上でも以下でもない。レントゲン室に閉じこもり、出てこない。何か特別な存在になっている。困っている。」と言う調査結果が一番多く、今でも私の頭の中に強く残っている。現在は大幅改善されていると思うが・・・。

そろそろ、人生の最後の曲がり角、最終コーナーにさしかかってきた。今まで得た経験値や人脈を頼りに、さらに新しい知識や人との出会いを求めて走りぬきたい。

1) OJT (On-the-Job Training) : 実際の仕事を通じて、必要なスキルや職業観・価値観などを身に付けさせる教育訓練